

## サマースクール

「大昔のべつかい・勾玉づくりに挑戦しよう！」を実施しました。

8月4日（木）参加者8名で実施しました。はじめに、別海町の大昔のお話しをしました。縄文時代の遺跡、土器、石器、人骨など遠い昔から生活の営みがあったことがわかったかと思います。

「勾玉」は滑石を使いました。なれない作業で悪戦苦闘しましたが、思い思いの勾玉が出来上がりました。



## 特別展「根室海峡から発見されたマンモスゾウ臼歯化石」 今月一杯となります！

- 期 間 令和4年7月6日（水）～9月25日（日）
- 場 所 郷土資料館第2展示室
- 観覧料 郷土資料館観覧料 350円（高校生以下無料）で見学できます。



解説パネル



実物資料



ジオラマ

## 国立アイヌ民族博物館で展示公開される 「加賀家文書等資料」について

9月17日（土）から11月20日（日）国立アイヌ民族博物館第5回特別展示「イコロ ウエカリレ アイヌ資料をコレクションする」が、同館で開催されます。

この特別展示には、当館の「加賀家文書等資料」からアイヌ民族資料9点、文書資料3点が展示公開されることになりました。

「加賀家文書等資料」は、近世幕末の古文書資料との認識が強いかと思いますが、アイヌ民族資料も含まれております。加賀家が活躍した地は、今の根室・釧路管内、大きく東蝦夷地（北海道の下半分）ということになり、こういったアイヌ民族資料の採集地は、この地方と考えたいところですが、断定は出来なようです。

右のチラシ・ポスターに使用されている写真は、当館所蔵のタシロ（山刀）・マキリ（小刀）であります。

この他に、樹皮衣、前掛け、脚絆、小物入れ、松浦武四郎関係資料も展示されます。

北海道・宮城県・三重県・広島県・福岡県から国指定文化財7件を含むアイヌ民族資料が一堂に会したものになるようです。



## 寄贈資料から「星印罐詰（缶詰）料理の葉」（藤野罐詰所 北海道根室）



この資料は町内在住者から寄贈されたものです。

明治20年(1878)開拓使別海缶詰所（本別海）を北海道から払い下げを受けた藤野辰次郎は、藤野缶詰所として営業をはじめます。海軍や陸軍から注文が入り安定した経営を続け、標津・国後・択捉に工場を設け事業を拡大していきました。

この葉は、生産された缶詰の調理方法を紹介したもので、鮭、帆立、北寄、エビの種類があり、おいしそうな献立が紹介されています。和風では鮭の野菜煮、洋風では、サーモンホワイトソースなどがあります。当時の食生活を知る貴重な資料となりました。

別海町郷土資料館だより No.278

発行日 令和4年9月1日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町30番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

### 編集後記

今年の夏は、天候不順で別海らしい気候ではなかったかと思えます。コロナも猛威をふるい収まりが見えない状況です。

町内の様々な事業・イベントも開催されるようになりましたが、油断大敵かと思えます。特別展も今月一杯となりました。ぜひ、ご来館ください。